Followup Seminar 2017報告

　岩谷栄子・深田洋子2017.1112

**１参加者一覧**

卒業生 32名

 １０期生　Chandika Regmi, Damana K Shahi, Gita Joshi, Goma Ghale,

 Lalita Pandey,

 Menuka Budha, Nirmala Gairipile, Premkala Shahi, Puja Karki,

 Amjhana B K

 9期生　Nirmala Pun, Nisha Gurung, Dilkasshi Gurung, Mina Kumari Acharya,

　　　　 　Menkashi Gurung, Parbati Thapa Magar, Ambika Majhi, Prema Gharti Magar

　　　　 　Gita Gosain

 8期生 Jayanti Chand Thakuri, Karuna Pal,

 ７期生　Asmita Bohora

 ６期生　Bam KumariBudha Magar, Dipa Kumari Bista, Kamala B.K. Kamala Dangi,

 Shrijana Budha

 ５期生　Laxmi Devkota, Shyamdulari Tharu

 ４期生 Sujata Acharya, Kalpana Kumari

 ３期生　Sharmila B.K.

現地女性教師　12名

　カピルバスツーの学校から２名

 Beri Kunwar (34歳、経験 17年）Yama Gurung (25歳、経験　6年

　ダーディン、パトレの学校から　10名

　　　 Kalpana Gurung(30,14) Kalpana Duwadi(31 ), Dipika Giri(20, 1),

 Rojina Shretha(22, 1), Bimala Shrimal(22, 6), Parbati Paudel(30,11),

 Sita Bhatta(25, ), Debaki Agasti(29, ), Bimala Thapa Magar(20,0.5 )

 Goma Shrestha(32, )

JICA ボランティア　7名

　　横山　　郁　(29歳) カスキ郡ポカラ、アンナプルナS学校、兵庫県伊丹市出身

　　広瀬　瞳美　(29歳) ナガルコット高校 静岡県三島市立南中学校教諭（現職）

　　三浦ひろみ (27歳) カトマンズ郡、ネパール野球ソフトボール協会、芦屋市出身

　　山下さくら (32歳) ダーディン郡HS学校、大阪市立加美小学校教諭（元）、

　加藤　泰紀 (22歳) ネパール体育協会内学校　東京都八王子市出身

　　吉積　勇人 (　　）体育風英語教師（現職）、カブレ郡高校、京都出身

　　市川　将義 （　　）江戸川区役所（現職）埼玉県出身、カスキ郡女性子ども事務所

**２FUS実施内容**

**10月8日（日）研修会第1日（11時から17時）**

　**①オリエンテーション**で、今回の趣旨を徹底。**②絵日記の指導**では、・絵を描くので文章が書きやすい　・文　章を作りながら絵が想像し易い、などの狙いで実施できた。絵画の表現力や、生活を振り返る習慣を身に付けていくことが課題である。日本の小学生の作品を116枚持参し、見本として指導して効果的だった。ネパールでは絵の表現に慣れていないことが課題である。**③算数の授業では、「分数物差し」**の活用を試みた。自力学習、比較検討の時間を設け、考えさせる授業が実施できた。加法の原理が減法等他の演算への応用力となり、発展するかが課題である。**④「絵本の読み聞かせ」**では、良い本に触れさせ、内容を深く理解し、想像力を育むことをねらいとして実施。本が身近にないこと等課題である。**⑤防災訓練**ではJICAボランティアの企画立案で実践できた。児童一覧の出席簿の準備や、最後の人員点呼の確認の徹底が課題である。

　どの授業・講義もJICA海外青年協力隊員がJNFEA側と入念な打ち合わせをして、JNFEAで用意した指導計画に沿って、独創性を加えネパール語で指導をし、大いに活躍してくれた。

**ジュムラの市長参観**

　秘書2名を同伴して**ジュムラの市長 Ms Kantika Sejuwal**さんが来訪された。研修会参観のほか、さくら寮の施設視察、KCPを訪問など精力的に行動された。

　また、研修会参加者に、「私はどんなことがあっても負けないで努力したから今がある。これからは女性も大いに活躍すべき。ネパールの憲法は世界の中でも素晴らしい。地方でも国会でも３３％を女性に、となった。女性が活躍すれば社会的に経済的に国が発展します。皆さんがそれぞれの村で頑張ってくださることを期待します。」との熱いメッセージをいただき、卒業生は大いなる刺激を受けた。

**10月９日（月)　研修第２日（10時半から17時）**

　**①サファラ先生の授業Story tellingとField trip**　をした。前日の学習を深める内容で、効果的であった。研修生にとっては、タレント的な授業の展開が求められる。また、物語から、深い学びをどう作っていくか課題である。**②体育の授業**カピバスツーでの研修をスジャータが中心となり、JICAボランティアの応援で実践した。ネパール語での指導で、きめ細かな実践ができた。授業前後の安全管理を徹底することが課題である。**③マナンダール学長の「リーダーシップを発揮する」の講義**はｐｐでの講義で、充実していた。より良い生活習慣を歌で指導してくれた。また、リーダーとしての配慮すべき点を、受講者をロールモデルとして実演してくれた。受講者が自校の状況をとらえ、どのように構築していくか課題である。　**④パトレから参加の教師による体育ゲームの授業**は、伝言ゲームをしながら、情報の危険性、正しい判断力の重要性を理解することができた。教師経験の短さをどのように克服するか課題である。

　パトレからとカピルバスツー等からの教師たちは、今日まで２日間の研修参加で帰途についた。ここでの学びをそれぞれの学校で生かし、教育の向上に役立ててほしい。パトレとカピルバツーのそれぞれの代表からは、次のような丁寧なお礼の言葉があった。

　・JNFEAの仕事のことは、聞いていたが、実際に皆さん（さくら寮卒業生）の顔を見たら本当に素晴らしい事業であると感じた。遠いところまで私たちを呼んでいただいて、ありがとう。

　・今まで知らなかって絵日記の指導や絵本の読み聞かせ、防災訓練などとても良い勉強になった。ここで学んだことを、自分の学校で実践したい。

 **10月10日（火）研修第３日（10時半から17時）**

　**①理科の授業（ろうそくの火がよく燃える条件）。**教材教具の適切な準備が功を奏し、理解を深めることができた。研修生にとっては、それらの準備への意欲が課題である。**②カマラ・ダンギが日本留学体験を報告。**日本の教師の子どもへのきめ細かな接し方、授業への取り組みの深さ、教員の率先垂範的な行動など紹介があり、視野を広げることができた。ネパールで手に入るものをどのように教材化するかが課題である。**③授業の年間指導計画の作成、週案簿の記入方法**は、その重要性について理解を深めた。自校で全体的な取り組みが可能かどうか課題であるが、まず自分から取り組みたい。　**④単時間の指導案の書き方**は、さくら寮にある教科書を見ながら、グループで指導案を検討し、発表した。ネパール式の指導案作成をしたが、日本式と比較検討し、充実していくことが課題である。

**ダーディン　ベシから参加の教師Parbati Paudel　さんとのお別れの会**

　山下さくらさんの勤務校の先生で、研修会に特別参加。彼女からは「このさくら寮のことは、山下さくらさんから聞いていましたが、実際に来てみて、遠方の各地から女性が集まって、カーストの違いを超えて仲良く学んでいることを知って、感激しました。私自身もこの研修会でとても良い勉強ができました．ありがとうございました。」と、丁寧な挨拶があった。

**10月11日（水）研修第4日　（10時半から17時）**

　　午前10時30分、定刻までに皆ホールへ集まって着席した。KCPのグルガ先生とケシャブ先生がおいでになり、10期生の報告からはじまった。

　**参加卒業生全員が実践報告。5項目の評価基準（実践内容、発表態度、克服姿勢、課題の明確化）をきめて全員の評価**をした。評価者はKCPのグルガ先生とケシャブ先生、マナンダ―ル学長、寮母マンジュ、クリシュナYOUTHCASP

代表、岩谷、深田である。10期生の報告からはじまった。地域が異なり児童の数、教師の数、施設設備の充実度も異なる現場だが、それぞれ精一杯勤めている様子が、聞き取れる。極端に貧しい地域で大きな困難を抱えて奮闘している人もいる。10期生10人の発表の後、9期生と続けて発表を終えて、10分程休憩。次の時間に8期生から３期生の報告を聞いた。

**審査の結果ベスト5発表**

　KCPの先生からそれぞれの実践に対する感想とアドバイスがあった。5**位 Asmita(7期生）、4位 Parbati（9期生）、3位 Shrijana （6期生）、2位Kamala（6期生）、1位 Sujata（4期生）**が選ばれた。5人はJICAボランティアの2人が用意してくれた紙製のメダルを授与され、みんなから賞賛の拍手を浴びた。

**３パトレ学校訪問10月14日（土）**

**（１）サンカデビ　セカンダリースクール訪問**

　　Followup seminarで研修を受けた サンカデビ　セカンダリースクールの　Kalpana Gurung先生が（3１歳,14年経験)が授業を実践した。11人の授業参観の教員には、別紙「良い先生の評価29項目」の評価カードを配布し、評価をしてもらった。その後、研究協議会をもち、授業者の自評の後、グループ協議を中心にして、参観者の評価をまとめ発表した。

**①10時から10時45分**

　　サンカデリパトレの学校を訪問し、5年生他　22人を対象に、日本の絵本（クリシュナ・カテワダ翻訳）の読み聞かせの授業を実施。修学旅行へ出かけるために早めに集合した、9・10年生も一緒に参加。

**②11時から11時30分**

避難訓練「happy topy」の授業、JICAボランティア創作のmapに基づいて、説明したのち、緊急避難の合図の下、校庭に避難。点呼。引き続いて、ボール送りの体育の授業を実践、5年生を二組に分け、ルールを指導してから、模範演技を実施し,競技に入った。次第に白熱し、徐々に作戦も考えだし、運動量も増えていった。

　協議では、ベテランの先生だけに、ゼスチャーを交えながらの良い授業であった、教室環境があまりよくないため、絵本を机間巡視しながら、見せてあげることができなかったこと、こどもの感想を十分に聞く時間、また、待つ時間など、熱心な協議がなされたが、

課題も明確になった。





**（２）カニヤデリベーシックスクール訪問　10月15日（日）**

**研修会受講者**カニヤデリベーシックスクールの Dipika Giri(20, 1)の授業参観。5年生19人が対象で実施、最初は男女別にチームを組んで、ボール送りのゲームであった。準備体操もしっかり行い、ルールの説明、模範演技実施後、競争させた。他の６人の教員が実に協力的で、チームワーク良く、若い先生のフォローを良くしてくれていた。二つ目のゲームドッチボールの競技では、2組の男女混合チームがどんどん白熱し、勝つための作戦を凝らし、ボールも上手に皆にまわしながら、かなり良い運動量になっていった。JICAボランティア山下さくらさんの補助が効果的であった。

　研究協議では、2人ペアで、話し合い、女性教員は体操などあまりやりたがらないが、デイピカ先生は、準備体操など、勇気をもってやってくれた。また、こどもの活動を増やしていくことの重要性を、他の支援団体の研修会でも学んでいて、その積み重ねができたことが良かった。

　地震後で崩壊したので、新築3か月後の新しい学校で、まだ十分に環境整備がされていないとのことであったが、教室内の掲示物など、工夫がうかがえた。先生方が非常に協力的であった。音楽・体育の授業は実施されていなかった。学校目標もまだ定められていなかった。



子ども数



**（３）ゴウリサンカベーシックスクール訪問**

**研修会受講者**ゴウリサンカベーシックスクールのSita Bhatta(25,？ )先生の授業を参観した。女性教員4名、全校児童数48名の小規模校である。図書室で「読み聞かせ」の授業が実施された。3・４年生　20名が対象であった。本のタイトルは「ひげじいさん」で、緊張しながらも、ポカラでの研修を生かしながら、表情豊かな楽しい授業展開であった。研究協議会では、こどもたちに、その後のことを想像させたり、感想を言わせたりできるとより良い授業となったのでは・・など積極的な意見交換ができた。最後にポカラで研修した歌「ビンゴの歌」を私たちのために合唱してくれた。

　学校目標は「どこへ行っても、誰にもまけない子どもになろう」ということであった。体育、音楽の授業は実施できていなかった。すでに授業で実践した、ポカラで研修した「絵日記」の作品を差し出しながら、絵の指導ができる先生がいないので、大変困っているとのことであった。





**（４）ガウリシャンカルスクール　訪問**

　　4時をまわっていたので、下校中の生徒たちに出会いながら、悪路を進んだ。男性の先生５人が待っていてくれた。授業参観はできなかったが、学校の様子などうかがうことができた。女性教員3人はすでに帰宅しているとのこと。音楽の授業はイベントの時を利用しているが、体育や美術の授業は実施されていない。学校目標は特に決めていないということであった。

　　　　　　

